

第5回コミュニティ推進基本方針策定懇話会 議事録

1. 日 時 平成25年8月8日(木) 18時00分～21時00分
2. 場 所 地域づくり支援センター2階視聴覚室
3. 議 題 ワークショップ
 - ・前回の振り返り、本日の協議内容説明
 - ・基本方針骨子(イメージ)の説明
 - ・基本方針策定に貢献しよう
4. 出席者 別紙2のとおり
5. 配布資料 コミュニティ推進基本方針骨子(イメージ) 資料1
市民活動活性化講座「地域を元気にしよう」 資料2
6. 議事録

(1) 会長あいさつ

暦の上では、昨日が立秋となりますが、連日猛暑が続く中、皆さんには昼間お仕事等でお疲れのところ、こうして第5回目の会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。

いよいよ素案作りに入っておりますが、皆さんのご意見をお聞きしながらいい案ができればと思います。

(2) 議事

◆前回の振り返り、本日の協議内容説明

(ファシリテーター)

今日は、通算5回目(ワークショップは4回目)になる。1回目のワークショップでは、懇話会はどのように進めるのか、基本方針の策定は何なのかなどの疑問を出し解決をしていった。2回目は、課題や将来的な不安について意見を出し合い、これを受けて3回目では、光市で今後必要になってくる機能や仕組みについて話し合いを進めていった。

例えば、情報共有の場や語り合う場があった方がいいとか、人材育成が必要といった色々な意見が出たが、こうした皆さんの意見等を踏まえて、基本方針の骨子を作っているのだから、まずは事務局から説明をしていただき、皆さんがこれまで積み上げてきた様々な意見と突き合わせてみてほしい。足りていない部分や大事にしてほしい部分などの意見交換を今回のワークショップで進めてほしい。

◆基本方針骨子(イメージ)の説明

(事務局)

※配布資料「コミュニティ推進基本方針骨子(イメージ)」により説明

○資料1 ページ目が基本方針の目次になるようなもので、第2回目の会議の中でも話としてあったが、30ページ程度で基本方針を策定していきたい。

○今日の懇話会のポイントは2つある。それぞれを説明する。

①「基本方針の概要」の「市の動向」の部分

平成19年から各地域で、随時、地域自主運営を進めてきたが、これに対する公民館長や主事、地域の方からの意見を聞いている。これを踏まえ、事務局としてのこれまでの光市の動向（地域づくり・公民館自主運営について）をまとめているので、ご意見をいただきたい。

【説明】

- ・公民館運営の歴史として、本市では、地域住民が主体的に参加する体制がある程度進んでいたため、これを一步前進し地域の課題は地域で解決する「地域自治」をさらに進めることを目的とした公民館の自主運営方式を推進することとした。
- ・平成19年から各地域で随時自主運営を開始し、地域コミュニティ組織や連合自治会、自主防災組織等が立ち上がるなど、独自の地域活動が展開された。一方で、役員の担い手不足や全体的な地域活動の衰退は続くとともに、地域選出主事の負担増など新たな課題も出てきた。
- ・地域自治を推進するための手法として公民館自主運営方式や地域選出主事の選出は間違った方向ではなかったが、地域住民を巻き込んだ「大きな地域の変化」が生じる際に、各地域の状況把握や丁寧な説明、さらには、組織作りや仕組み作りなど行政としての様々な取組みが不十分であったと考えている。
- ・今回の反省を踏まえ、地域と行政がともに地域づくりの協働のパートナーとして歩むための、地域づくりの羅針盤にあたる「コミュニティ推進基本方針」を策定することとした。キーワードは「対話」になる。

②地域コミュニティ推進のための3つのポイント

これまでのワークショップでの意見を踏まえ、ポイントを3つ定め、それぞれに項目をお示ししている。これに対する協議をしていただきたい。

【説明】

- ・3つのポイントに基づき、地域が目指す地域の未来は「地域自治の推進」になる。地域自治を簡単に言えば、「地域のことはみんなで話し合い、協力して地域づくりを行っていくこと」であるが、やわらかい表現にできるところは変えていきたいと思っている。こうした意見も今回の協議で出していきたい。
- ・《ポイント①「地域と行政がともに歩む」》について、地域と行政が対話できる場が大切ということで、「対話の深化・協議の場づくり」を項目と

- して挙げている。また、皆さんの意見の中で、「行政におんぶにだっこではなく自分たちでできることはやる」とあったが、多くの地域住民が参加し、自分たちの地域は自分たちで考えていく場の設定と、協議に基づき目標や計画を立てていく「地域づくり計画の策定」が必要となる。
- また、計画づくりや、話し合いの場を進行する上で、コーディネートできる人材の活用が有効ということで、「地域づくりアドバイザーの派遣」が考えられる。今回の懇話会でも、平田さんをはじめ、市民プロデューサーの方にご指導いただいているが、地域づくりを進める上で、こうした会議や計画づくりをアドバイスできる人材に関わってもらうことも効果的な手法といえる。
 - 地域と行政がともに地域づくりに関わる手法として、市民の公益的な活動を財源的に支援する、また、一緒に事業を進めていく「元気なまち協働推進事業」を検討している。詳細が確定しだい説明をさせていただきます。
 - 《ポイント②「地域がつながる」》について、地域がつながるためには、「新たな人材の発掘や育成」が必要となってくる。現在地域では様々な活動があると思うが、こうした活動の情報収集やつながりをしかけていくことで、人と人がつながってくる。
 - また、つながるだけでなく、こうした場でそれぞれの「ニーズや想いを汲取る」ことで、地域づくりへの参加や地域づくりをさらに進めることが期待できる。
 - これまでの協議の中で、「自治会の計画的運営」や「自治会長の任期制」など自治会についての意見が非常に多かった。自治会は地域コミュニティのベースになるもので、地域を繋ぐ重要な役割を担っているが、自治会が機能するためには、そこに関わる人の育成が必要となってくる。自治会も含め地域での「人材育成」を図っていききたい。先進事例を参考にしながら、自治会長やコミュニティ役員への研修、さらには、地域づくりのリーダーになる人材の育成などが想定できる。
 - 地域自治を進めるためには、すべての人が参加できる組織がなくてはならない。協議の中での象徴的な言葉として「民主的な仕組み」があったが、地域住民にわかりやすく開かれた組織となる「地域コミュニティ組織の充実」を考えていく必要がある。また、地域コミュニティを充実させるためには、「地域財源の再構築及び確保」が必要となってくることから、今ある財源や予算がはたして妥当なのかどうかも含め、地域財源について考えていきたい。
 - 《ポイント③「行政が変わる」》について、これから地域づくりを進める

ためには、全庁的に地域と協働できる体制を整えていく必要があるため、「協働の推進体制」や職員の関わりについて考えていきたい。そのためには、今ある「行政施策の再点検」をするなど、地域との関わる施策を整理していく必要もある。

- ・また、職員一人ひとりが地域と関わるための「市民公務員の育成」も必要となってくる。

※今の説明に対し、これからのワークショップの中で、不足している項目や分かりやすい表現などについて協議をお願いしたい。

(ファシリテーター)

今説明があった資料だけで協議するのではなく、ワークショップで皆さんが積み上げてきたことを思い出しながら、協議をしてほしい。

そのほか、言葉の表現が堅苦しいとか、イラストや図式されたものがあつた方がいい、さらには、人口の推移などのデータがあつた方がいいなどの発想があつてもいい。皆さんはこれまで積み上げてきたから理解できるかもしれないが、これから初めて見る人にとって必要なものはなにかといった視点で提案することも必要となってくる。

◆ワークショップ「基本方針策定に貢献しよう」

(ファシリテーター)

「基本方針策定に貢献しよう」をテーマに、骨子に対する前向きな意見をいただきたい。追加したい項目やデザインの工夫など色々な意見を発言して記録に残していく。

※3グループに分かれて協議する。

※骨子について意見を出し合う

※協議内容のとりまとめは、別紙3

(ファシリテーター)

いろいろな意見が出ていて、骨子の中に組み込んでいただけるものも共有できたと思う。今後は骨子を充実させながら、委員の皆さんと会議形式で意見交換をしていくことになる。

今回の骨子のポイントの1つとして、「地域と行政がともに歩む」があるが、この中で、「地域づくり計画の策定」が項目として挙がっている。

今から、皆さんの地域で地域と行政が一緒になって地域計画を作っていくということ。かなり大変な作業にはなると思うが、みんなで地域のことを一緒に考えることは、今、当たり前のようになっていて、ここを楽しんでできる地域

になるとすごくいいのかなと思う。

(事務局)

※市民活動活性化講座「地域を元気にしよう」の紹介

今日のワークショップでもあったが、先進事例や身近な地域の活動を知ること、自分の地域の課題に築くこともあると思うので、ぜひ参加してほしい。

※次回について

9月下旬を予定しており、これまで皆さんからいただいた意見を踏まえ、基本方針の素案を提示する予定。